



**2月3日**  
**第25回昭和新山国際雪合戦 第8回日高地区予選大会**  
 今年は一般の部に9チーム、レディースの部に7チーム、ジュニアの部に4チームが参加して行われました。  
 本大会へは、一般の部で優勝した、町内の教職員を中心としたチームの「コバ・シンバ・F」を含む3チームと、レディースの部で優勝した、太陽地区を中心に結成したママさんチームの「太陽NAT 38」が出場します。

**2月14日**  
**少年国内研修交流事業報告会**

平成24年度少年国内研修交流事業報告会が行われ、1月8日から3泊4日の日程で沖縄研修に行った、小・中学生18名が研修結果を発表しました。  
 沖縄では、「戦争・平和」「歴史・文化」「環境・自然」の3班に分かれ研修を行い、その成果を子どもたち自身がまとめ、会場に訪れた家族や関係者に報告しました。



**2月17日**  
**冬の新冠を満喫！ 日高スノーフェスティバル開催**  
 新栄の新冠場外離発着場で、第6回日高スノーフェスティバルが開催されました。  
 年々参加者が増え、今年は家族連れなど約130名が会場を訪れ、スノーモービルやトラクターで引かれたソリや大型ゴムボート、バナナボートに乗り込み、全長1.5キロの特設コースでスノーラフティングを楽しみました。



**昭和音大との合同コンサート**

2月23日、レ・コード館で「昭和音楽大学」「合唱団VOL」「朝日小学校」「冠中吹奏楽部」「静高吹奏楽部」によるパートナーシップ・コンサートが行われました。  
 このコンサートは、新冠町出身の昭和音楽大学生のコンサートを行ったことがきっかけで始まり、今年で12回目の開催となりました。



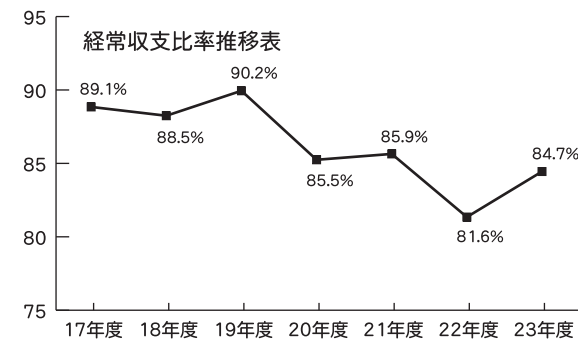
**新冠消防団現地教育訓練**

2月17日、レ・コード館で新冠消防団全分団から30名が参加し、現地教育訓練が行われました。  
 この訓練は、団員に必要な礼式や基本動作を、消防署職員指導のもと行うものです。  
 訓練では、班長の号令で集合や行進、敬礼など息のあった団体行動を見せていました。



**ホームヘルパー2級取得**

1月18日、新冠町社会福祉協議会でホームヘルパー2級養成研修会の修了式が行われました。  
 この研修会は、町民を対象に新冠町社会福祉協議会の主催で行われたもので、通常の4分の1程度の費用負担で資格が取得できると言うことで、23名が研修を受講し資格を取得しました。



**経常収支比率**

19年度	90.2
20年度	85.5
21年度	85.9
22年度	81.6
23年度	84.7
23年度管内平均	85.7
"全道町村平均	82.6

経常収支比率とは、財政構造上の弾力性を判断する指標として用いられ、通常75%以内におさまることが妥当と考えられており、数値が高いほど財政が硬直化していることとなります。

平成23年度決算では、町税や普通交付税などの経常一般財源収入は35億3004万円、経常一般財源支出は31億7238万円となり、経常収支比率は84.7%（収入に臨時財政対策債を除いた事実上の収支比率は89.9%）となります。経常収支比率を前年と比較すると3.1ポイントの増となりました。  
 この状況を家計に置き換えると、給料や事業収入で得た家計収入のうち、家のローン、教育費、光熱水費など既に決まっている支出が約8割あり、残りの2割が手元に残り自由に使えるお金ということになります。

**実質公債費比率**

19年度	19.4
20年度	19.9
21年度	19.6
22年度	18.1
23年度	16.6
23年度管内平均	15.1
"全道町村平均	11.7

平成17年度決算から、新たに取入れられた町の会計全般における借金の返済額を示す指標で、3力年平均の値が18%を超えると、地方債を借り入れる際に許可団体となり、さらに25%を超えると、一部の地方債の許可に制約を受けることとなります。  
 公債費（借金返済額）は平成18年度をピークに下降しており、平成23年度決算においては、町債発行の許可団体の基準を下回りました。

**将来負担比率**

19年度	137.4
20年度	103.7
21年度	78.8
22年度	64.6
23年度	55.0
23年度管内平均	64.4
"全道町村平均	87.2

平成19年度決算から、新たに取入れられた指標で、町が抱える実質的な借金の残高が、後年次にどれだけ負担となるかを示すものです。  
 350%を超えると財政の早期健全化団体に指定され、様々な対策による改善が求められます。基準を大きく下回る数値となっていますが、借金の新規借入を抑制する必要があります。

**実質公債費比率**

**将来負担比率**

**基金残高と地方債残高**

**基金残高（貯金）**

平成23年度決算における一般会計の基金残高は17億6339万円。平成22年度の決算残高と比べて8369万円増加しました。  
 安定的な歳入が見込まれない中においては、現在高の維持に努めなければなりません。  
**町民一人当たりの貯金額 30万4千円（平成25年1月現在の人口で算出）**

**地方債残高（借金）**

平成23年度決算における一般会計地方債（元金）残高は74億9688万円。平成22年度の決算残高と比べて4億3565万円減少しました。  
 一般会計においては、今後も公債費が減少していく見込みとなっております。  
**町民一人当たりの借金額 129万3千円（平成25年1月現在の人口で算出）**